

## 平成 24 年度第 10 回政策会議 結果概要

- 1 開催日時：平成 24 年 10 月 19 日（金）9:00～10:00
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり

### 議題 1 三重県観光キャンペーンの実施について

【加藤観光・国際局長】（資料 1 に基づき説明）

三重県観光キャンペーンを平成 25 年 4 月から 3 年間にわたって行う。

予感づくり、体感づくり、実感づくりを軸として、リピーター増加を目指して取り組むので各部の協力をお願いする。

これに先立ち 11 月 3 日には、伊勢楽市会場にて、「三重県観光キャンペーンキックオフイベント」を開催する。

また、三重県観光キャンペーンの名称（愛称）募集を行ったところ、164 件もの応募を頂いたので、選定結果を併せて 3 日に発表する。

【鈴木知事】

平成 25 年度経営方針案でも示したとおり、このキャンペーンには全庁をあげて取り組むこととしている。

各部は、このことを十分意識し、よほどそぐわない取組でない限り、イベントなどの機会を通して積極的に PR を行うこと。

部長等の挨拶において、部の施策の説明等に加えキャンペーンについて触れるなどしてほしい。

### 議題 2 政策創造員会議における調査・研究活動に関する中間報告について

【企画課及び各ワーキンググループメンバー】（資料 2 に基づき説明）

政策創造員会議における調査・研究活動の目的、中間報告の位置づけ等について説明を行った後、WG 1（ワーキンググループ 1）から WG 4 の各グループから検討状況を報告。

【梶田農林水産部長】

WG 1 に関連して、地域と若者とのマッチングということだが、重要なテーマを含んでいる。農林水産部でも関連した様々な取組を進めているので、そうした取組を分析してもらって、提案をしてもらえると部局としてもありがたい。期待している。

【石垣副知事】

キッサニアというのは、三重県全体をそのように見立てるということか。その中で、雇用、農林、観光などいろんなファクターを入れ込むということか。

【WG 1】

そのとおりである。

【藤本地域連携部長】

全体を通して、パワーポイント資料のせいもあるが、論理的なつながりが良くわからない。例えば、WG 1ではキッサニアを具体的にどう使っていくのか、どの要素を次に生かしていくのかが分からない。WG 2では、事例を選んだ理由や事例自体の位置づけが分からない。WG 4では、方針1、2からなぜヘルスツーリズムと加工食品が出てきたのかが分からない。最終報告では、しっかり書き込んで欲しい。

また、WG 3に関連して、参考文献を見るとどういう研究かが理解できるので、最終報告では記載して欲しい。

【企画課】

最終報告書は、ワード形式でまとめる。論理的なつながりが明確になるようしっかり書き込みたい。

【山川雇用経済部長】

自分のところはWG 1と4に非常に興味がある。もっと原課と議論して良いものを仕上げて欲しい。期待している。

【小林南部地域活性化局長】

WG 1について、農林水産業のうち、林業関係は全国的に最近若い人が就業し始めているので、農業、水産業とは状況が異なる。その辺を踏まえて、最終報告に向けて検討して欲しい。

WG 3は、サイレントマジョリティについては大変難しいので、どういう風に進めていくのか、芽出しをしてもらえれば良かった。

WG 4のヘルスツーリズムは、東京でも流行っており、良いとは思いますが、三重県に当てはめた場合、医者が足りない中でどうしていくのか掘り下げてもらえるとありがたい。

【鳥井こども・家庭局長】

WG 1について、キッサニアは年齢層が低いはず。子ども局でもチャレンジタウンなどに取り組んできたが、その事例を基に大人に当てはめていくのは大変ではないかと感じている。年齢の高い層をターゲットにどうしていくのか、しっかり考えてもらいたい。

WG2の図書館の事例について、広域自治体の専門性の核の部分だと思うので、それを一般論として展開できるのかとも思う。そのことを十分踏まえて検討を進めて欲しい。

【石垣副知事】

全体として、皆さん若いので、もっと冒険したらどうか。我々がもっと理解できないことをやって良いと思う。健康ツーリズムなどは今でも手をつけている話。パブリックインボルブメントについても一緒に、言葉に溺れているところがある。あっと驚くようなことをして欲しい。

【渡邊危機管理統括監】

こういう提案ではやりっ放しになることが多く、D○の部分が弱い。民間の方ともっと議論して、民間が自ら取り組むような、D○につながる提案をして欲しい。

【植田副知事】

1年、2年の目先にとらわれなくても良いのではないか。アクティブシチズンであれば、「県庁は不要」とか、思い切った提案をしても良いのではないか。

【鈴木知事】

もっと自由に、大胆に、部局長が怒るくらいの提案をしても良いのではないか。最終案が中間報告と変わっても全然構わないので、ぜひそういう提案をお願いしたい。この活動は組織として人事発令を行って取り組んでもらっているので、部局から意見を聞くことを遠慮する必要はない。どんどん議論して欲しい。

また、活動は楽しみながら進めて欲しい。

最終案が中間報告から変わっても良いと言ったが、当初の課題意識は変わらないと思う。皆さんはテーマ選定に際して、しっかり議論し、段階を追って活動してきているので、なぜこのテーマか分かっているが、多くの方は、なぜこのテーマなのか、背景や課題意識を説明しないと理解できない。その辺を丁寧に最終報告に書き込んで欲しい。